

2018年のPISA調査の結果から考える

開倫塾

塾長 林 明夫

1. おはようございます。開倫塾塾長の林明夫です。今朝も「開倫塾の時間」をお聴きいただき、ありがとうございます。今朝の「開倫塾の時間」では、少し前のこととなりますが、12月3日に発表になりましたOECDのPISA調査の結果についてお話をさせていただきます。
2. PISA調査とは、15歳児を対象とした国際的な比較をしながらの学力調査のことです。その調査には、3つの分野があります。1つはいろいろなものを読み解く力である読解力、2つ目は数学的な応用力、3つ目は科学的な応用力です。この3つの分野について、パリに本部のあるOECD(経済協力開発機構)が学力調査をしており、その結果が先日発表になりました。
3. この調査は2000年から始まり、2003年、2006年と3年ごとに行われています。一番最近に実施された2018年のものが、翌年の12月3日に全世界で発表になり、世界中の教育に関心のある方々が非常に注目をしています。
4. 2000年の第1回目の調査では、読解力、数学的な応用力、科学的な応用力のをほとんどすべての項目で日本が1、2位を独占し、日本は非常に教育レベルが高いといわれました。しかし、2003年からはフィンランドが1、2位を独占するという非常に素晴らしい結果でした。日本は負けたという結果からPISAショックを受け、それ以来、日本政府はこのPISA調査を気にし始めるようになりました。
5. 今回の結果では、読解力が世界の全参加国中で15位と、非常に下がってしまいました。下がったといっても、15位ですから高いとは思いますが、2000年の1、2位を独占していたころに比べると大きく下がってしまったということです。また、数学的な応用力は6位、科学的な応用力は5位で非常に高い結果でした。
6. では、どこが1位かといいますと、中国の北京・上海・江蘇・浙江です。読解力、数学的な応用力、科学的な応用力のすべてで1位です。2位がシンガポール、3位がマカオ、4位が香港と、中国の方がよく勉強していることがわかります。

7. なぜそんなによい結果なのかというと、簡単な理由です。中学生、高校生は朝は 7 時 30 分から始まり、高校生は夜 6 時に授業が終わって、そのあと 9 時半まで学校で勉強してから家に帰る。熱心な方は、夜 10 時から塾に行つて 12 時まで勉強している。凄まじいです。勉強時間が非常に長いです。一日中本当に長く勉強しています。昔の日本の浪人生がしていた勉強を、中国では中学生、高校生がみんなやっています。ですから、特に、北京・上海・江蘇・浙江、シンガポール、マカオ、香港の方々におしなべて上位を占められています。
8. 日本は、読解力がなぜ 15 位かといいますと、2 つの理由があると考えます。1 つは、日本の子どもたちはあまり新聞を読まなくなってしまったこと、本も読まなくなりました。とにかく文章をよく読まなくなりました。その代わりにやっているのはスマホです。スマホでは LINE で短い文をやり取りすることが多いため、長い文章を読み解く力がなかなか身に着かないということです。新聞や本を読む量が非常に減ってしまったことが大きな原因だといわれています。
9. もう一つは、試験の方法がパソコンを使って解答することになったことです。2015 年から問題文をパソコンで見て読み、パソコンのキーボードで入力をしながら解答するという方法に変わりました。日本の中学生、高校生はそのことに慣れていませんので、非常に不利になったといわれています。ですから、政府はこの PISA 調査の結果が発表になる前の週に、全国の小学生、中学生にパソコンを 1 人 1 台ずつ配付をするという案を出してきました。邪推ですが、おそらく政府の一部の方々はこの結果を知っていて、これではちょっとまずいということで早めに手を打ったのではないかと思います。対策として素晴らしいことだと思います。もちろん社会に出てからもパソコンの操作は非常に大事で、子どもたちにも役に立ちます。
10. 今日は、12 月 3 日に世界的に発表になりました、OECD の PISA 調査の結果についてお話をさせていただきました。日本は読解力が 15 位に下がってしまいました。それは、新聞を読んだり読書をしたりする小学生・中学生・高校生が非常に減ってしまったこと、パソコンの操作があまりうまくできなかったことが原因として考えられるということをご説明させていただきました。シンガポール、マカオ、香港、エストニアの方々は、パソコンの操作が上手で上位に位置していますので、日本もこれから見習って少し勉強をしたほうがよいのではないかと思います。ご参考にしていただけたらと思います。